２０１６．９．１９　大草

読書メモ

21．鎌田茂雄　　「正法眼蔵随聞記講話」　講談社

22．堀内一史　　「アメリカと宗教」　　　中公新書

23．山折哲雄　　「暮らしのなかの祈り」　岩波書店

24．関根清三　　「倫理の探索」　　　　　中公新書

25．小泉義之　　「倫理学」　　　　　　　人文書院

26．今成元昭訳　「方丈記」　　　　　　　旺文社

27．武光誠　　　「知っておきたい日本の神道」角川ソフィア文庫

28．品川哲彦　　「倫理学の話」　　　　　ナカニシヤ書店

29．内藤孝弘他　「図説お経の本」　　　　洋泉社

＜正法眼蔵随聞記講話＞から。

この本は、道元の弟子懐奘が道元の教えを分かりやすく書いた「正法眼蔵随聞記」の解説書。

①無所得の修行

学道の人（真理を学ぶ人）は、自分のため（立身出世、自己救済、悟りを得るためなど）に仏法を学んではいけない。道元は自分のために学道や修行をすることを拒否した。道元は、仏法修業は、何ものかを得るために行うのではなく、真理のため仏法のために行うものであるとし、無所得の修行を堅持した。（真理と仏法の前では、自分は無でなければならない。真理を体現した自己が尊いのではなく、自己に体現せられた真理が尊いのである。仏法は人生のためのものでなく、人生が仏法のためにあるのである。）

②行雲流水の如し

貧にして貪らざる時は先ず此の難を免れて安楽自在なり。学道の人は貧でなければならない。財があれば、守ったり、取られまいとして心が乱れ、財をめぐって争いが起こる。財がなければ、心が乱れることもなく、争いも起こらない。僧とは、雲のように一定の住所もなく水のように流れてよるべき場所持たないのが僧である。

③おのれの分を知れ

修行において一番大切なことは、我執を捨てて知識の教えに随うことである。仏教では人間の欲望を三毒という。貪り、瞋（いか）り、痴（おろか）さの三つが、人間の心をダメにする。三毒のなかで最も強い煩悩が貪りの心である。金でも地位でもあればあるほどもっと欲しくなる。貪欲の強い者は生きながらにして餓鬼道に落ちると説く。足りるを知れ。知足の人は貧しと雖もしかも富めり。自分のたけ分にあわせて生きるのがよい。

（花は半開きを看、酒は微酔に飲む・・・菜根譚）

④惜陰を知る

人は少年や壮年のときは、時間を惜しむことを知らない。年を取ってから初めて光陰を惜しむことを知る。50歳、60歳を過ぎれば、いつ死ぬか分からぬとなれば、一瞬一瞬に生命を賭けるようになる。世間の付き合いは止むを得ないかも知れないが互いに相手の時間を盗んでいるのである。（他人の時間を盗むことは最大の盗みである。）人生は短く、時の流れは速い。何か一事をなさんと志すならば、無用な交際と無駄な時間の空費は極力避けねばならぬ。

⑤病と修行

たとひ発病して死すべくとも、猶只是を修すべし。病ひ無ふして修せず、この身をいたはり用いてなんの用ぞ。病して死せば本意なり。

⑥一事を永続するは難し

「無常迅速　生死事大」、無常の道理を考えるなら、只今一瞬一瞬を大切にしなければならない。「今日の発句は今日の辞世、今日の発句は明日の辞世、我れ生涯言い捨てし句に一句として辞世ならざるはなし」（松尾芭蕉）。何かやろうというのが発心で、発心したらやり遂げると決心し、継続していかなければならない。

参考）脇愚山（三浦梅園の弟子）の同約５条

一．学問の本は身をおさむるに在り、心つつしみを忘れず、身、礼儀を怠らざるべき事。

一．学問の要は人倫をあきらかにするにあり、各々の道に従いて違えざる事。

一．学問の道は知ると行うにあり、必ずよく知り、よく行うべき事。

一．経書を第一とし、その次は史、その次は諸子百家雑書たるべき事。

一．文章は我言を立て意を達するの用なり。詩は我情を詠じ、興を寄する具なり、余力を以てつとめはげむ事。

アメリカと宗教（堀内一史）より。

☆スコープス裁判　1925年

テネシー州デイトン（当時人口1500人）の高校教師ジョン・Ｔ・スコープスが、州法に違反して、進化論を授業で教えた。スコープスは、逮捕され、訴訟の被告となった事件。

一審：有罪。100＄の罰金刑

州最高裁：一審判決を否認し、訴えの棄却を命じた

結論：勝敗がつかないまま放置。

1968年に「反進化法」が廃止となった。

裁判においての議論では、進化論者の勝利。反進化論者は、聖書の矛盾を合理的に説明できなかった。

☆大統領選では、以下のような政治と宗教が議論の焦点となった。

　進化論、同性婚、人工妊娠中絶、共産主義、無神論、公民権運動、人種差別、貧困格差

以上